

身近な生きものマップ (タンポポ)

市民の方の協力により 524 件の報告をいただきました。

目的

みなさんに茅ヶ崎市内の現在の自然環境の状況を広く知っていただくために、身近な生きものの調査を企画いたしました。第1回はカマキリ調査を行いました。今回はタンポポ調査を行いました。報告結果の閲覧も含め、少しでも多くの方が市内の自然や生物に目を向けていただければと思います。

地区別集計結果

地域	カントウタンポポ
茅ヶ崎	21
中海岸	4
東海岸南	1
南湖	1
西久保	2
堤	31
甘沼	1
芹沢	26
香川	2
行谷	1
合計	90

結果

今回市民のみなさまから 524 件の報告をいただきましたが、そのほとんどが外来種のセイヨウタンポポでした。

地区別集計結果ならびに調査マップはカントウタンポポの結果を示しています。

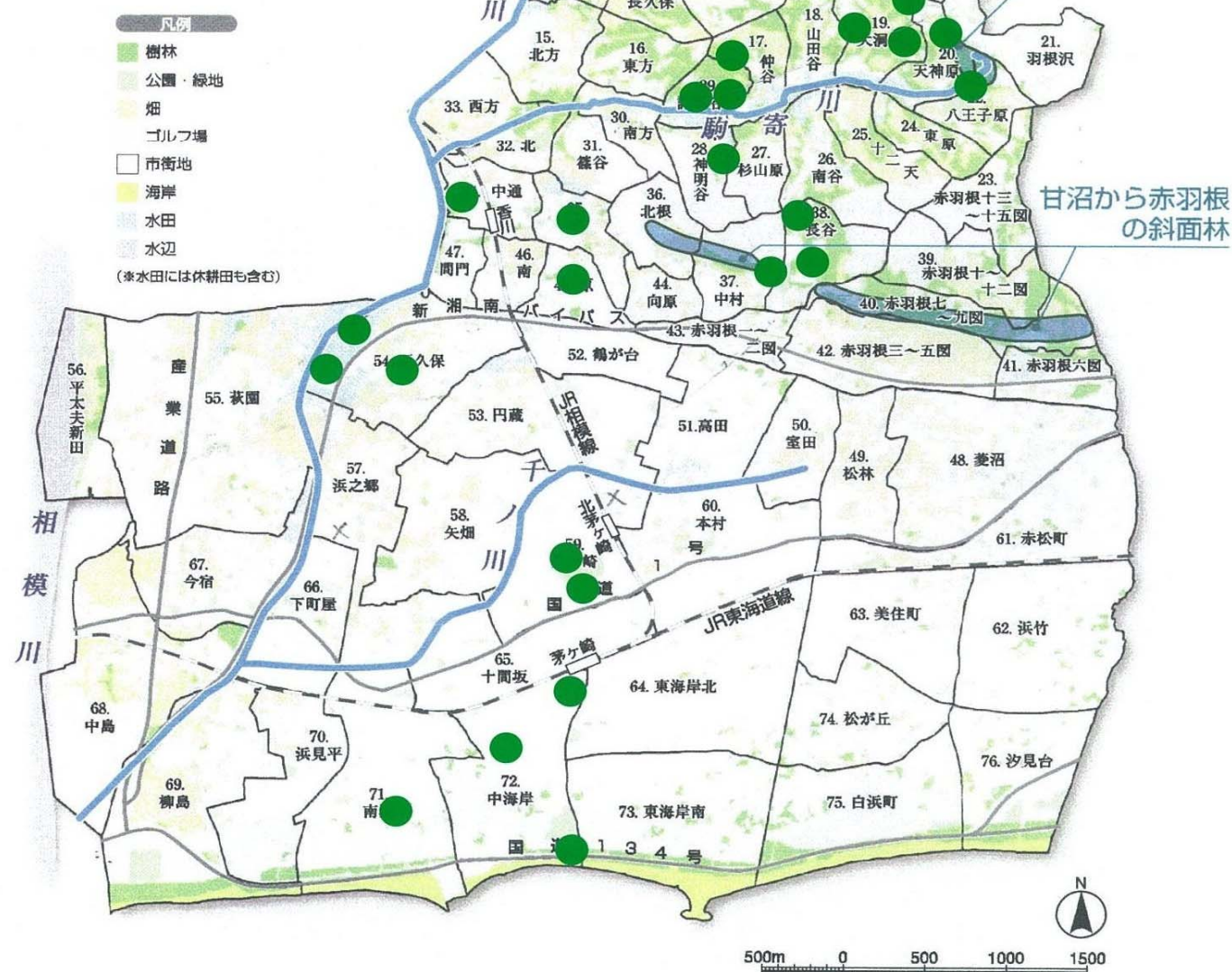


カントウタンポポ



セイヨウタンポポ

調査結果マップ



まとめ (池田 尚子さん【駒寄川水と緑と風の会所属】)

春の代表的な花のタンポポには、もともと日本に生えていた在来種と明治時代にヨーロッパから移入されて広がった外来種があることはよく知られています。

在来種も多くの種類がありますが、今回の「身近な生きもの調べ」では花を包んでいる総ほう片の反り返りが無いものを在来種、あるものを外来種で調べたところ 524 のデータが集まりました。

調査結果から、在来種のカントウタンポポはかつての景観の残る北部に多く、南部では少ないことが分かります。在来種と外来種の分布が都市化の程度と密接なつながりがあることは知られていますが、今回の調査でもそれは如実に現れています。

さらに中央公園や、野球場の周りなどに残っていることが今回の調査で明らかになりました。また、赤羽根や小出川、駒寄川の土手には「カントウタンポポの群生が数年前には見られたが、今は見られなくなってしまった」という調査の感想もいただきました。

外来種のセイヨウタンポポは授精しなくても実をつけることができ、実も小さく軽いので広がっていく力が在来種のカントウタンポポよりあります。開発によって、植物のない場所に侵入して、分布を広げることができるからです。

また近年遺伝子レベルの研究により、カントウタンポポとセイヨウタンポポの交雑種もあることがわかってきています。

カントウタンポポを増やすことは難しく、現在ある環境を壊さないようにすることが大切です。